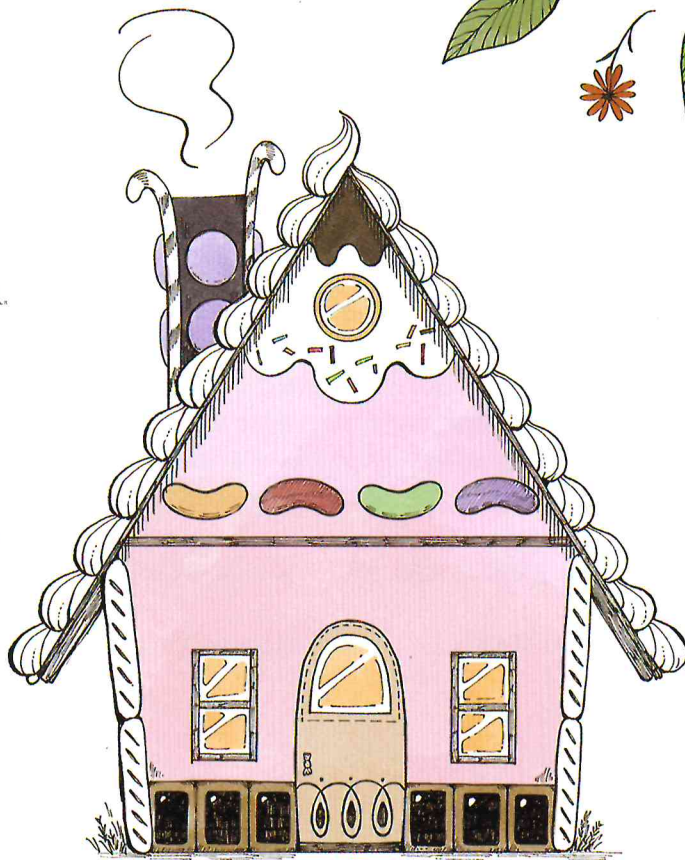




子ども虐待防止

あこが
オレンジリボン
キャンペーン

「オレンジリボン運動」は、子ども虐待防止のシンボルマークとしてオレンジリボンを広めることで、子ども虐待をなくすことを呼びかける市民運動です。オレンジリボン運動を通して子どもの虐待の現状を伝え、多くの方に子ども虐待の問題に関心を持っていただき、市民のネットワークにより、虐待のない社会を築くことを目指しています。



Hänsel und Gretel

～半分のお月さまたち～

ドラマティックカンパニー
劇団アルティスタ



子ども虐待防止あこがオレンジリボンキャンペーン 2020
特定非営利活動法人児童虐待防止全国ネットワーク 2020 年度オレンジリボン共催事業
令和 2 年度 西播磨地域づくり活動応援事業

劇団アルティスタによるオリジナルミュージカル 「ヘンゼルとグレーテル」 ～半分のお月さまたち～



あそこに出てくる月が見えるかい。本当は半分しか見えていないのにそれでも丸くて美しい。多くのことを私たちは笑うけど目にはすべて見えてないものなんだ。

人は誰でも半分。
完璧な人間なんていやしない。
親も子どもも。
半分同士が助け合い
補い合って丸を作っていく。



【キャスト】

ヘンゼル 北國 茉和 グレーテル 藤本 杏

ヴェルニゲ (声)	宮永 あやみ	ゾフィー	平野 沙織
母親	古津 有麻	カタリナ	網干 美樹
父親	鬼塚 浩太郎	ブルーノ	塚本 貴仁
ウルリケ	平山 彩華	こども (声)	平山 結奈
フルダ	堀口 華愛		



動画はこちらの
QRコードから
ご覧いただけます。

【演奏】

BGMソロ	祥.L
ピアノ伴奏	Thilo Lange
コーラス	安川 夏未 / 安川 実里 / 前田 京香
ピアノ・シンセサイザー他	山村 美知

虐待かもと思ったら ☎ 189 番へ
お近くの児童相談所につながります。

ご近所や外出先で出会った子育て中の親子に、やさしいまなざしをお願いします。赤ちゃんに微笑みかけたり、困っている親子を見かけた時の些細なあなたの行動が、子育て中の親子の心の支えになることもあります。「子どもを叩いている」「子どもをひどく叱っている」など、気になる親子の様子があれば、可能なら声をかけてみましょう。育児の悩みを話せたり、子どもと一緒に遊ばせるなどできる相手がいれば、もしかしたら心が少しおだやかになるかもしれません。声を掛けるのが難しい場合は、児童相談所（児童相談所全国共通ダイヤル189）などに連絡し、専門職の支援にゆだねてください。

（脚本・演出）宮永あやみ / （作曲）野村英利 / （編曲）山村美知 / （ドラマツルギー）大政亜貴
（イラスト）ころりよ / （リーダー）北國茉和 / （マネージャー）平山彩華 / （演出助手）平山結奈
（照明・音声）伊中昌宏 / （撮影）伊中昌宏・山村岐・目黒恵理香 / （編集）宮永あやみ・伊中昌宏
（道具）鬼塚浩太郎・細川澄・山村岐・橋本宏輔 / （小道具）亀井有希子・藤本佐緒里・平山美香
堀口寿美・北國真衣・高岡昌子・前田香里 / （衣装）白神和子・吉川和代・富田かおり・荻江美子
（広報）安川実里・網干美樹・川西沙紀・目黒恵理香・平野沙織・古津有麻・亀井美希

【主催】赤穂市地域活動連絡協議会 【後援】赤穂市 赤穂市 PTA 連合会 【協力・制作】劇団アルティスタ

Ayami Miyanaga

演出家 宮永あやみ



この度、オレンジリボンキャンペーンで、オリジナルミュージカル『ヘンゼルとグレーテル』の、動画作成にあたりまして、脚本・演出を担当させていただきました宮永です。

『ヘンゼルとグレーテル』という作品は、ドイツで起こった大飢饉の際に、口減らしのために、森に子供を捨てる、という、当時実際に横行していた事実から生まれた民話が元になった物語です。その現実と事実に着目し、児童虐待をテーマに、ハイデルベルク大学の大学院で、ドイツ文学を研

究していた大政亜貴さんをドラマトゥルギー（作品の時代考証など、知識で演出を支えてくれる役割）として向かえ、作品を研究し、オリジナル脚本として、作り上げました。

虐待にいたってしまう親たちを、責める内容ではなく、人間は誰も完璧でなくともよい、完璧でない人間同士が助け合うことが大事なんだよ、ということを伝える内容となっています。

この動画が、子育てや、親子関係に苦しむ全ての方に、少しでも慰めとなり、また、近年薄れてきている周囲とのコミュニケーションのきっかけに役立てることができると幸いです。

Michi Yamamura

劇団アルティスタ代表 山村 美知



劇団アルティスタの公演は、毎回テーマを決めて演出家が脚本を書いています。前回 2019 年公演『雪の女王』のテーマは愛。愛が満ち溢れた感動作品の後に、ずっと気になっていた「児童虐待」を提案しました。

当時、千葉県で女兒が父親から虐待を受けて亡くなった事件があり、心が痛みました。宮永さんと何度も虐待事件について話し、彼女が調べたことや書きたいことを聞き、脚本を待った記憶があります。

舞台公演とは違った動画制作。やり始めてみていろいろ不都合がわかり、何度も脚本を書き直してもらった。撮影をしながら演出を変えることもあり。そのうえ、コロナ禍のために最少人数で行いました。それは予想以上の気苦労と骨の折れる作業でした。とにかく、出演者・スタッフ全員が元気で無事撮影を終了させることばかり考えていました。

最後に、キャストは全身全霊でそれぞれの個性を表現しています。誰もが大切に必要存在です。見てくださった方が、キャストの気持ちに共感してくだされれば幸いです。



子ども虐待防止

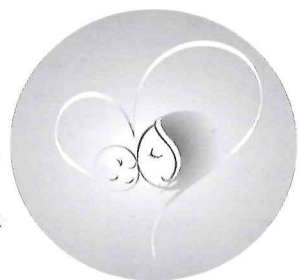
あころ
オレンジリボン
キャンペーン

「子ども虐待のない社会を目指して」

平素は、オレンジリボン運動にご支援ご協力をいただきありがとうございます。
児童虐待防止法が施行されてから 20 年、これまで様々な虐待防止策が行われ、ひとり親家庭への支援や貧困対策など、社会的養護の充実も図られて来ました。

しかし、児童相談所による虐待相談対応件数は約 20 万件に達し、痛ましい虐待事件は後を絶たず、子ども虐待をめぐる状況は依然として厳しいものがあります。

とくに、コロナ禍という困難な状況に親も子どももストレスにさらされ、虐待のリスクの高まりが懸念されています。こんな時だからこそ、地域の力による子どもと子育てへの応援が必要とされています。「市民一人ひとり」が協力して、「虐待のない社会」を実現させましょう。子どもと親が安心して安全に毎日を送ることができるよう、皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



赤穂市地域活動連絡協議会 会長 岩崎由美子